

要 望 事 項

会派名 無会派 池谷 晴一

事 業 名	内 容 説 明
市民の医療ニーズに応える医療環境の充実について	1次救急を担う救急医療センターは、建築後41年を経過し、老朽化している。また、市内の2次救急医療機関で対応ができないケースも生じている。さらに、3次医療機関である伊豆の国市の順天堂大学医学部付属静岡病院等遠方の医療機関への搬送に時間を要するなど、1分1秒を争う助かる命を助ける医療体制の充実が求められている。加えて、市内2次医療機関での一般診療に時間がかかるという市民の声も多い。 市においては、このような状況に鑑み、市民の切実な医療ニーズに応える体制の充実を喫緊の課題と捉え、救急医療センターの建て替え、あるいは、民間の救急医療センター・総合病院の誘致など早急な対応を要望する。
「スポーツタウン」に相応しいスポーツ環境整備について	御殿場市陸上競技場はピッチ内の芝生（野芝＝観賞用の芝＝競技用ではない）の状況から、サッカー等競技について冬場や夜間の利用が認められず、年間使用日数が著しく制限されており、競技可能な芝生への張り替え、管理が求められており、さらに、芝生ピッチの縦横が短いなどの多くの課題に対応し、Jリーグ有名チームや市民、一般合宿の利用に供することも求められている。しかしながら、現陸上競技場の改修には多額の費用を要するため、ラグビーなどにも対応でき、利用が著しく拡大する人工芝球技場の建設への取組を要望する。 近年フットサル人口が急増しているが、市内にはプレー可能な施設が少なく、市民の利用や市外からの宿泊等も伴う利用に応えられない状況にあるので、学校体育館や地区施設の開放施策、あるいは、施設の新設を要望する。 また、競技人口が多い野球ニーズに対応するため、東グラウンドのスコアボード改修を要望する。一方、マイナー競技であるアーチェリーを楽しむ市民もいるが、市内には競技、練習する施設がないので、施設の建設、あるいは、弓道場の併用利用等競技環境整備施策を要望する。 市は「スポーツタウン」を標榜している中、市民の利用促進や市外からの合宿等ニーズに応えるため、既存施設の改良・利用促進施策や施設新設等スポーツ環境整備を要望する。